

『人生を大切に』

八尾市立志紀小学校

六年（当時） 森 晴菜

非行防止教室で、あらためて非行が悪いことだということが分かりました。はんざいは絶対にだめだと思ふし、はんざいと自分が思っなくてもはんざいになっていることがあるのは、こわいなあと思ひました。たかが人をつきとばしただけ。そんなたんじゅんな話じゃないことは、はじめて知りました。ケンカからなぐりあいになつたりすると、もうもとはもどれないと思ひました。そんなことで、人生をめちゃくちゃにするのはよくないと思ひます。

私は、交番に行ったことがあります。さいふをひろい、交番にもっていったり、かぎをなくして、さがしに行ったこともあります。ふいんきはすごくこわいけど、しゃべってみると、やさしくて、しんけんに話を聞いてくれました。けいさつかんは、こわくて、すぐおこる人だと思ひっていたので、ま逆の性格でびっくりしました。

『きょうはん』なんてものは、絶対にやってはいけないし、友達を止めてあげないといけないと思ひました。自分だけ断つたら、その友達ははんざいをお

かしてしまうからです。自分がはんざいをおかさなくても、友達がはんざいをおかしてしまうのは、私だったら自分のせきにんだと感じてしまいます。理由は、友達をとめなかったのは自分だからです。友達とはぐれる生活は、毎日楽しくないと思います。家族や友達がいてこそその人生だと思ったので、非行は必ずしてはいけないと思いました。

たった一つの事で、家族や友達とはぐれたりするのは、とてもかなしいことだと思いました。その一つの事で、自分の人生がめちゃくちゃにはなってほしくないし、なりたくもないです。一回やったことは、もうとりかえしのつかないことになっている。そうなる、今までの人生のようにはすごせない。